

クラウドファンディングを用いた 研究費獲得について「虎の巻」

京都大学総合研究推進本部 (KURA)

京都大学

KYOTO UNIVERSITY



クラウドファンディング（CF）とは

- Crowd+ Funding
- インターネット等を通じて不特定多数から資金を調達する方法
- 研究費獲得がメインの学術系クラウドファンディングは2012年ごろにアメリカで始まり、日本でも2013年から徐々に浸透
- 京都大学でも2021年から大学として実施できるようになりました（後述）



学術系 CF のメリット



1. 自分の好きなタイミングで挑戦できる

科研費などの競争的研究費は公募期間が事前に定められているケースがほとんど

2. 萌芽的な研究分野やニッチな費目で助成金を得られる可能性がある※

競争的研究費は助成対象となる分野や経費の使途に何らかの制限を設けるケースがほとんど

3. 資金獲得と同時に研究内容を広く社会に伝えられる

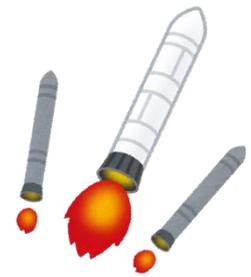
CF事業者の持つネットワークを活用して、自分の研究内容をより多くの人に知ってもらうことができます

4. 企画に関する支援者の声を直接聞くことができる

支援者からは、資金提供だけではなく、企画（研究）に対する期待や様々な応援のコメントが寄せられるので、誠意を持った対応が必要

※ 職務を逸脱する内容での資金調達や、調達目的から大きく外れる用途に利用することは大学としてNGなので要注意

京大発のグッドプラクティス



academist カミナリ雲からの謎のガンマ線ビームを追え！

後で見る

榎戸 輝揚
京都大学

湯浅 孝行
理化学研究所

榎戸輝揚、湯浅孝行

京都大学、理化学研究所
特定准教授、特別研究員

支援総額 **1,600,014円**

達成率 **160%** サポーター **153人** 残り時間 **終了**

支援する

- ニッチなテーマで関連実績も少なかったために科研費などの採択が見込めなかったが、2015年10月にクラウドファンディングを利用して約160万円を集める
- 集めたお金で研究成果を出し、翌年の科研費に採択
- さらに翌年には、CFから芽吹いた研究成果をNatureに出版

学術系 CF のデメリット



1. チャレンジすれば必ず成功するわけではない

All or Nothing 型：目標金額を達成した場合に受け取ることが可能

* All In 型（目標金額の達成の有無にかかわらず受け取る）は選択できません

2. 自動的にお金が集まるわけではない※

お金を集めるための宣伝戦略の検討、挑戦用HPの作成やSNSを通じた情報拡散、支援者に対する事後報告など、想定外に時間と手間がかかる場合も

3. 支援者に対して何らかのお礼（リターン）が必要

寄付型：お礼の手紙や活動レポートなど、金銭性が低いものを提供

* 購入型（独自の商品やサービスなど、金銭性が高いものを提供）は選択できません

4. デジタルタトゥーになりうる

チャレンジに失敗した場合、CFサイトに失敗情報が残り続けるため、今後の業績に影響が出る場合も

※ 「科研費が不採択だったからとりあえずクラウドファンディングしてみよう！」という安易な考えは後悔の元かも

利用時の注意点



予定した研究が失敗に終わったり、遂行されなくてもペナルティはない

- ただし資金使途や研究成果の発信、報告に関して不誠実な対応や説明を行うと、研究者本人のみならず、所属組織の社会的信頼の失墜にも繋がる恐れがある
- CFで募った資金は市民から直接受け取ったものであることを十分に理解し、資金使途の説明や研究成果の発信、報告などは適切に対応すること

クラウドファンディングの内容と大学の職務の間に関係が認められるか

YES : 獲得した資金で、勤務時間内に、大学の施設を利用した研究が原則できる

※特定業務への従事を前提として雇用されている研究者の場合、研究テーマの間に関係が認められても実際の挑戦が認められない可能性があるため、事前に管理者（教授や人事担当者）に確認してください

NO : 大学のスキームを通じてクラウドファンディングを行うことはできません

※独自に事業者と契約し、週末などの勤務時間外に学外でクラウドファンディングを行うことは止めないが、広報の一環として大学名などの利用を検討している場合、事前に上長に相談し承認を得ておくこと

一口に CF といっても千差万別



- クラウドファンディングサービスを提供している企業は多様
- 分野に特化した○△型と総合型の二つに大きく分けられる
- 挑戦テーマや目標金額にあったプラットフォームを選ぶことが重要

京都大学における実施体制



2021年に体制を整備し、大学としての実施が可能に

- 総合型のREADYFOR、研究型のアカデミストと包括契約しルールを整備

大学として実施するメリット

事務作業の軽減

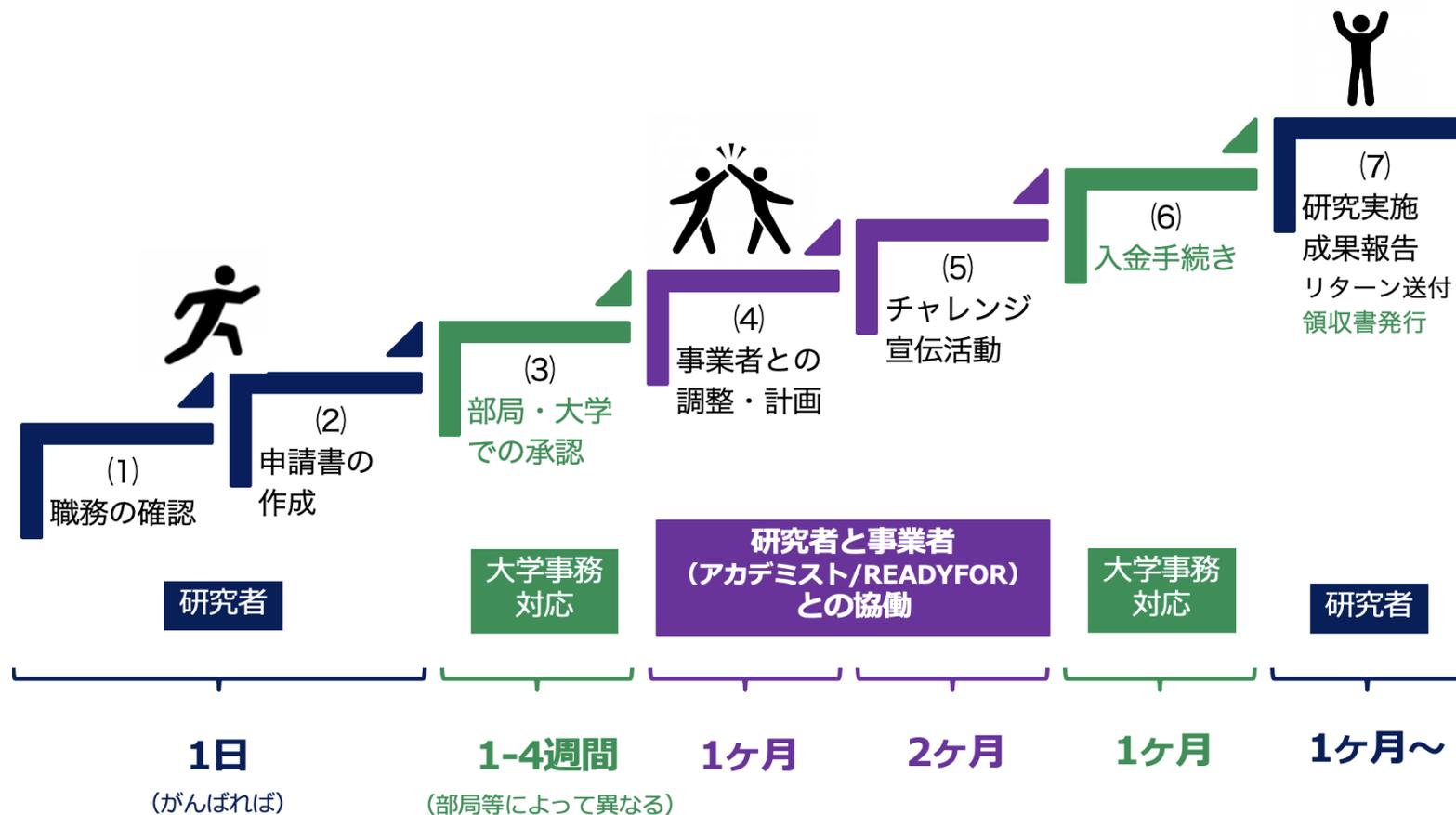
- 個々の研究者がCF事業者とその都度契約を結ばなくて良くなった
- 必要な作業（入金や領収書発行など）が明確化されたことで、大学の事務が取り扱いに悩み作業が一向に進まないといった事態を解消

今までは研究者個人がCF企業と独自に契約し、各種手続きを事務と相談・交渉しながら進める必要があった（トラブルもしばしば…）。

公式SNS（Webサイト、X（旧Twitter）、Instagram、Facebook）の活用

- 大学のお墨付きを得ることで各種大学の公式SNSを使った宣伝が可能に
- 京都大学の公式 X のフォロワーは約5万人、公式WEBサイトの月間閲覧数は11万人以上！
- CF成功の鍵は、いかに広く宣伝するかにかかっている

CFの実施スケジュール



- 検討開始から研究に着手する（資金が使える）まで最短でも約5ヶ月はかかる

申請書の作成

クラウドファンディング実施申請書

このたび、下記のとおりクラウドファンディングを実施したいので、申請いたします。

記

事業名称	
事業内容	(事業の概要)
	(クラウドファンディングの活用が効果的であると判断する理由)
実施責任者	
募集期間	年 月 日から 年 月 日まで
プロジェクト開始 予定日	年 月 日
目標金額	円
寄附金の使途	
部局承認	<input type="checkbox"/> 申請内容について部局長の承認済
法令等の遵守に係る 対応	<input type="checkbox"/> 対応済 → 承認を得た会議等名 [<input type="checkbox"/> 倫理委員会など] <input type="checkbox"/> 該当しない
事務担当者 (掛)	

以上

京都大学基金を通じたクラウドファンディングの実施に関する規程

令和3年7月13日 総長裁定制定

(趣旨)

第1条 この規程は、京都大学基金を通じたクラウドファンディングの実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ各号に定めるところによる。

- (1) クラウドファンディング インターネットを利用して事業の内容を公開し、賛同を得た不特定多数の支援者から寄附金を募ることのうち、その業務を企業等に委託するもの(寄附金を京都大学基金に受け入れるものに限る。)をいう。
- (2) プロジェクト クラウドファンディングにより集めた寄附金により実施する事業をいう。
- (3) 事業者 国立大学法人京都大学(以下「本学」という。)のクラウドファンディングの実施に係る業務を委託した企業等をいう。
- (4) 支援金 クラウドファンディングにより受け入れた寄附金をいう。
- (5) 実施責任者 本学の教職員で、クラウドファンディングの実施及びプロジェクトに責任を負うものをいう。
- (6) 部局 各研究科、各附置研究所、附属図書館、医学部附属病院及び各センター等(国立大学法人京都大学の組織に関する規程(平成16年達示第1号)第3章第7節から第11節までに定める施設等をいう。)並びに事務本部をいう。

(実施の要件)

第3条 クラウドファンディングは、当該クラウドファンディングに係るプロジェクトが次の各号のいずれかに該当する場合は、実施することができない。

- (1) 金銭又は金銭類似性若しくは資産性の高いものによる返礼を前提とする場合
- (2) 京都大学基金規程(平成23年達示第33号)第2条に規定する目的に沿わない場合
- (3) 本学の名誉及び信用を損なうおそれがある場合
- (4) 本学の規範の遵守並びに倫理及び公正の確保ができないものである場合
- (5) その他渉外(基金・同窓会)担当の理事(以下「担当理事」という。)が実施することが適当ないと認めた場合

(実施の申請)

第4条 実施責任者は、クラウドファンディングを実施しようとするときは、所属部局長(事務本部にあつては、プロジェクトの内容に応じ、所掌する理事又は副学長。以下同じ。)の承認を得た上で、別紙様式により担当理事に申請するものとする。

(目標額)

第5条 実施責任者は、前条の申請に当たっては、プロジェクトの実施に必要な経費として算出した額に、クラウドファンディングの利用に必要な経費として算出した額を合算して、目標金額を算定するものとする。

(実施の決定)

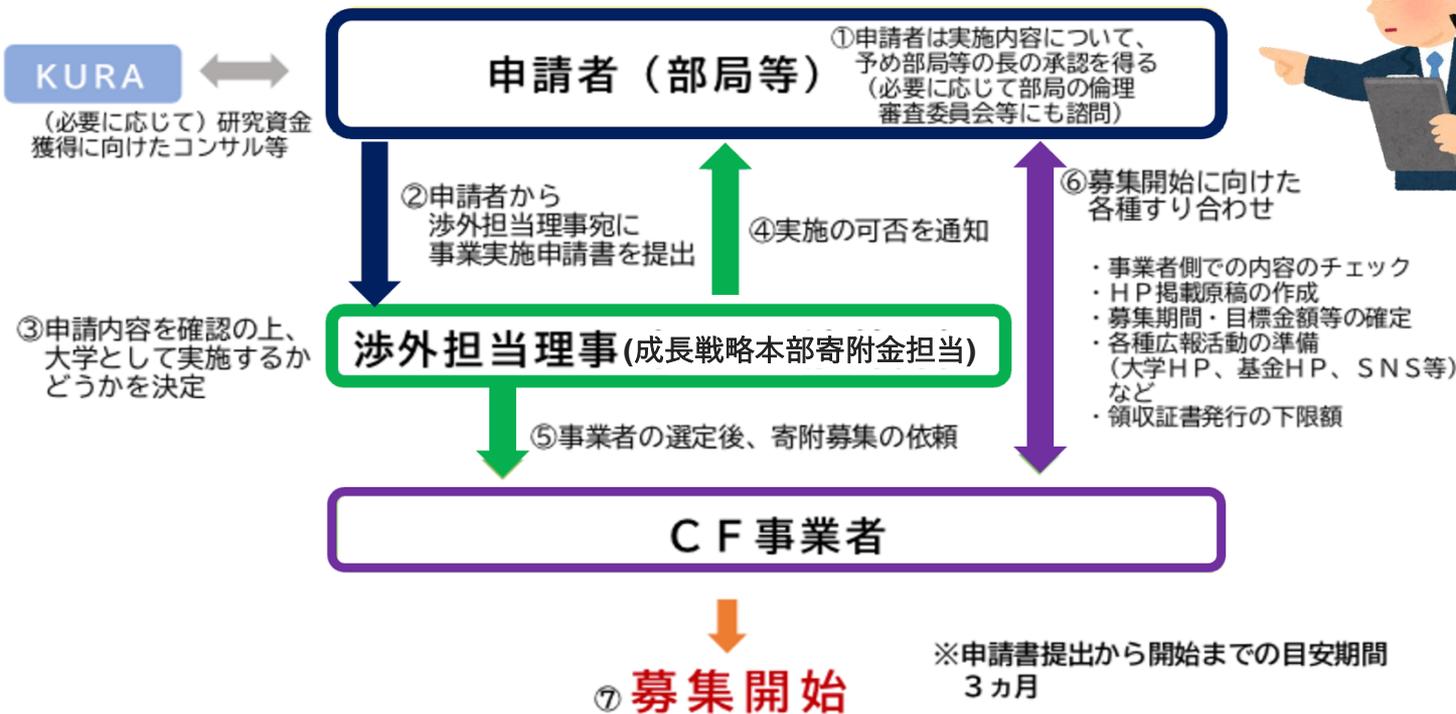
第6条 第4条の申請を受けた担当理事は、申請内容が第3条各号のいずれにも該当しないことを確認の上、クラウドファンディングの実施の可否を決定し、部局長を通じて実施責任者に結果を通知するものとする。

2 担当理事は、前項の可否の決定に当たっては、必要に応じて関係する理事又は副学長に意見を聴くことができる。

- 申請書はA4一枚。現時点の考えで良いので各項目を埋め、所属部局の事務に提出し部局の承認を受ける。承認が降りたら「部局承認」欄をチェック。内容が本学としてのクラウドファンディング実施規定に接触しないかも要確認
- 各資料はこちら → <https://ku1.cybozu.com/g/cabinet/index.csp?hid=36108&sf=1&sp=0>

部局・大学での承認

重要!



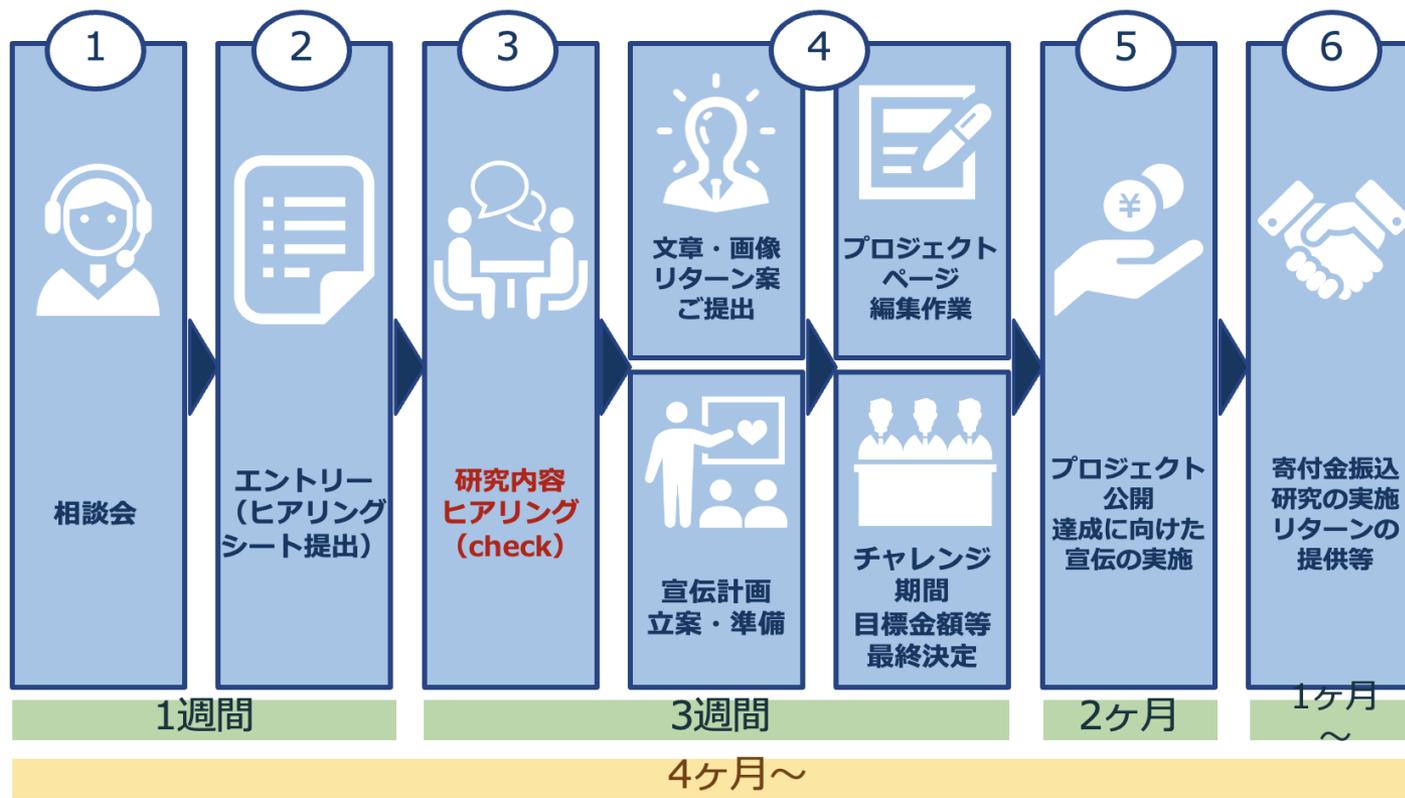
- **承認の肝となるのは①。** 部局等の長の承認方法やスケジュールは部局ごとに異なるため、申請を検討し始めたら所属部局の事務に承認までの具体的な流れを確認し、手続きを進める
- 部局長の承認が降りたら、続いて、チェック済みの申請書を成長戦略本部寄附金担当にメールで提出
- 申請者が主に手を動かさなければならないのは①②⑥⑦の4つ。 KURAも適宜サポート

事業者との調整・計画① 事前相談

	academist	READYFOR		
目標金額	平均100万円	500～1000万円以上		
代表的な対象	基礎研究・萌芽的な研究	大型の医療/福祉系プロジェクト		
特徴的なサービス	 <p>academist 編集部 研究の魅力を伝えるコンテンツ作成</p>	 <p>academist BAR Youtube Liveで研究者の魅力発信</p>	<p>達成率94%の 広報戦略提案</p> 	<p>魅力的な ページ構成のご提案</p> 
	 <p>academist Journal 学術系Webメディアでの研究報告</p>	 <p>academist researchers</p>	<p>登録者30万人の メールマガジン掲載</p> 	<p>週1回のミーティング で徹底サポート</p> 

- 渉外担当理事から承認が降りたら、大学での承認手続きはひと段落
- 続いて、アカデミストとREADYFORのどちらかを選択し、実際の挑戦に向けた調整に移る
- 迷う場合は両方と相談した後で決めてもOK（各社の詳細は末尾記載の参考資料を参照）

② ヒアリング



- 上はアカデミストを例にとった場合のスケジュール（READYFORでも概ね同じ）
- 事業者による研究内容のヒアリングも予定されているため、計画の中断を余儀なくされることがないように、しっかりと準備し、自分自身の思いや構想を伝えよう

③ リターン、目標金額、宣伝準備

本スライドの各項目は、選択した事業者のアドバイスを
受けながら共同で検討してゆきます

1. 適切なリターンが設定されているか？

大学の理解が無ければ、研究資料・試料の譲渡や大学施設の見学をリターンとすることはできない（いずれも大学の財産という位置付け）。少しでも迷ったらまず所属事務に相談を

2. 各種手数料や間接経費を考慮、逆算した目標金額になっているか？

CFで募った支援金から、事業者への手数料（約18-20%(税込)）、大学への間接経費（本部5%、部局数%）、支援者へのリターンの3つを引いた残額が研究資金として手元に入ってくる

例：支援総額 100 — 業者手数料 (約15%) 約15 — 京大本部OH (5%) 5 — 部局OH (数%) = 実際の研究資金 75-80前後

3. 積極的なアウトリーチ活動を行う準備ができているか？

支援の輪は、身近な知人や研究者仲間に声をかけるところから始まり拡大する。そのためCF挑戦に先立ち、寄付してくれそう、宣伝に協力してくれそうな研究者仲間や学会、身近な同僚といったネットワークを丁寧に棚卸しする必要がある

宣伝活動



宣伝に関しては京大広報課と成長戦略本部寄附金担当のサポートが受けられます※

1. 京大公式HP、SNS (X, Instagram, Facebook) への掲載

- HPにはチャレンジ開始時にのみ掲載できます。
- SNSには、チャレンジ開始時に加えて、募集終了日が迫っているが目標金額に到達していない場合、募集終了前にもう一度掲載できます。

2 京大記者クラブでのプレスリリース (PR)

- PRは必須ではありませんが、行うとメディアに記事として取り上げてもらえる可能性があります。
- 希望する場合は、記者に対して直接説明する場を設けることもできます (記者レク)。
- 準備に労力はかかりますが、記者レクを行うと記事にしてもらえる確率は上がります。
- 記者レクの詳細は、本資料の最終ページに記載の「PRの虎の巻」を参照。

3. 京大同窓会Facebookページへの掲載

- 掲載希望の際は、本資料の末尾に記載の渉外課渉外事業支援掛に掲載内容を添えてご依頼下さい。

※ 1-3のいずれの場合も、CF事業者でプロジェクトが公開されるタイミングに合わせて京大側でも掲載されるよう、事前の計画・調整が必要です (詳細は次ページ)

CFに関する京都大学公式HP、SNSにおける広報について

1. CF開始時 ⇒ 京都大学公式HP、公式SNSに掲載



① 部局内でCF実施の承認を得た後、「京都大学公式ホームページ・京大広報等掲載申請ポータル」を通じて、**部局事務担当者から**、CFに関するニュースの公式HPへの掲載を広報課に依頼する。また、PRや記者レクが必要かどうかこのタイミングで研究者に確認し、必要であれば、次のスライドの①～③まで合わせて準備する。

ポータル
<https://www-app2.pr.kyoto-u.ac.jp/user/entry>
 (京大アドレス限定。申請の手順はトップに置いてあるマニュアル参照)



② 広報課で、クラウドファンディングプロジェクトの広報文を公式HPおよび公式SNSに掲載 (Twitterには、公式HPへの掲載と同じタイミングで自動で掲載されます)。
 ※ InstagramとFacebookへの広報を希望される場合、**部局事務担当者から**、広報課 (kohho-joho@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp) までメールでご依頼ください。

【公式HPへの掲載例】



<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2022-09-12>

【公式Twitter】



③ 広報課から部局事務担当者に記事掲載完了を報告

2. 募集終了日が迫っているが、目標金額に到達していない場合等 ⇒ Twitterなどの公式SNSにて再通知 (再通知は原則1回まで)



① **部局事務担当者から**、メール等で、公式SNSでの再通知を広報課に依頼

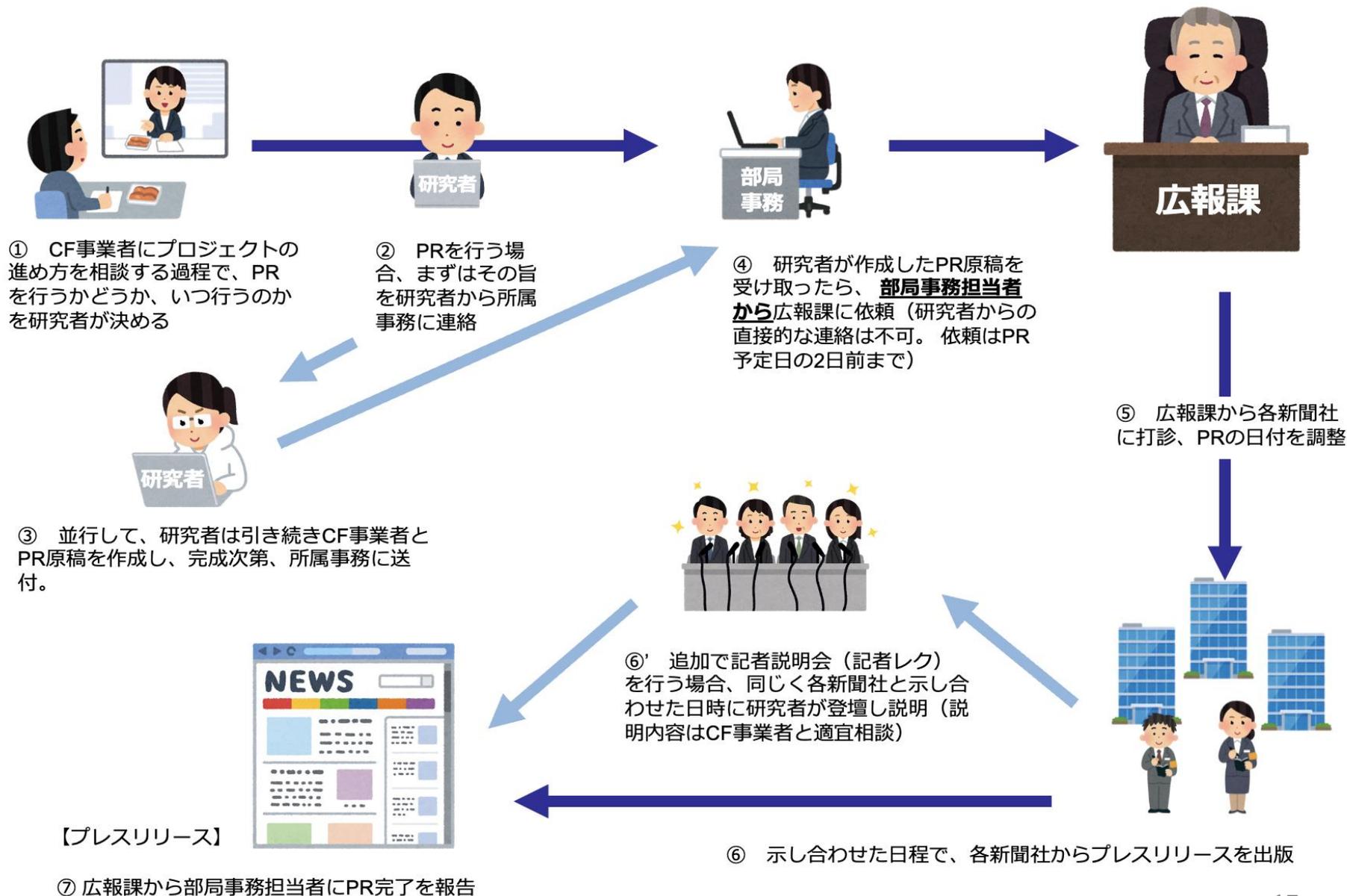


② 広報課で公式Twitter等に掲載

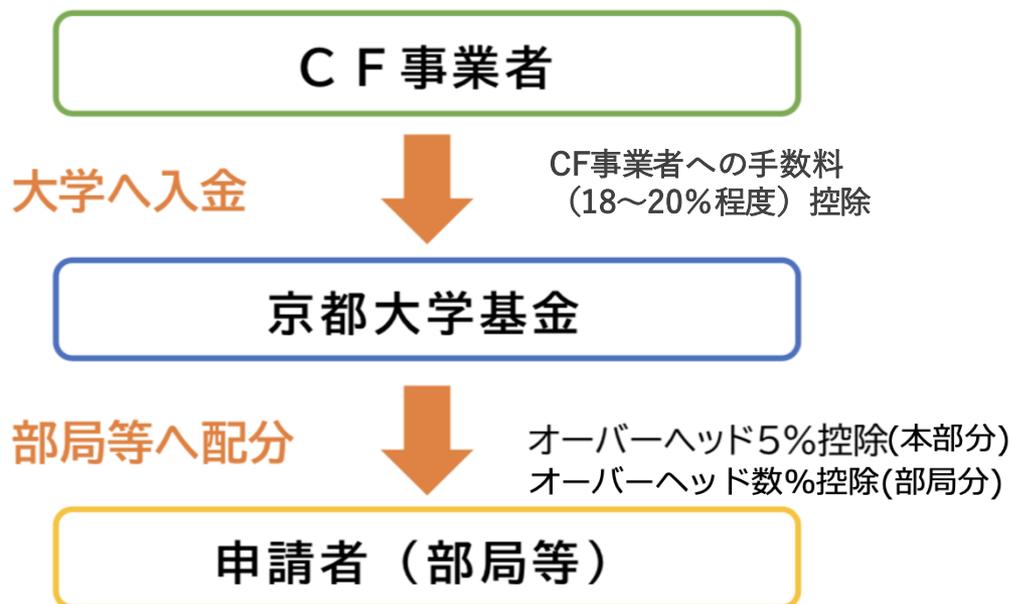


③ 広報課から部局事務担当者に記事掲載完了を報告

京大広報課を通じてCFプロジェクトの宣伝(PR)を依頼する場合



入金手続き



- 業者からの入金を受付や、部局等への配分、支援者の寄付控除に必要な領収書の発行などは成長戦略本部が担当
- 支援者への領収書の発送作業は、挑戦者が部局事務と協力して対応
- 無事に目標金額を集めることに成功したら、あとは入金を待つだけ
- 入金後、実際に研究費として利用できるようになるまでには1ヶ月程度かかります

研究実施、成果報告、リターン送付

あまりに大掛かりな（高価な）リターンは労力や費用がかかることに注意

- 金銭や金銭類似性があるもの（例：販売されているチケット）などは不可
- お礼メールや論文謝辞への名前の記載、大学グッズなどが比較的手軽なリターンの代表例
- 個人で100万円、法人で300万円を超える寄付金額に対しては、京大基金特典として時計台記念館の寄附者銘板をリターンとして設定することも可能（その場合は寄付者に対して掲載希望の有無も別途確認する必要がある）
- 具体的にどのようなリターンを設定するかはCF事業者と一緒に検討



本学の名誉及び信用を損わないように適切な対応を！

- 支援金の使途や成果をめぐって支援者から疑義が呈されるなどして、本学の名誉及び信用を損なうことのないよう、支援者に対しては適切なタイミングで成果報告を行うように計画をしてください

転出について

- プロジェクトの実施期間中に他の研究機関への転出が決まった場合、転出先にクラウドファンディングを受け入れる体制が整っていれば受け入れた資金を移管することは可能ですが、転出先の受け入れ体制が整っていない場合は、転出をもってプロジェクトを打ち切りとせざるを得ないことがあります
- したがって、任期付きの職についているなど、近いうちに京都大学を退職や転出する予定が見込まれる場合は、クラウドファンディングで受け入れた資金の移動の可否などを転出先や所属先の部局事務にあらかじめ確認しておくことが不可欠です

参考資料

- 過去に実施した学内説明会の動画
- Academist、およびREADYFORに関する詳細資料
- 研究成果発表「虎の巻」ープレスリリース編ー



FAQ

目標金額を超えた場合はどうなりますか？

募集期間中に集まった金額がそのまま最終的な獲得額となります。

京大に提出する「クラウドファンディング実施申請書」はどの程度の粒度で記入する必要がありますか？

達成金額および大まかな寄附金使途が明記されていれば、詳細な寄付使途については漠然とした内容でも結構です。

All or nothing方式で目標金額に達成しなかった場合、挑戦した研究者側の経費面でのデメリットは？

本方式は成功報酬の形をとっているため、目標金額未達の場合でもCF事業者に対して手数料を支払う必要はありません。ただし、募集期間中に自発的に行ったプロジェクトの宣伝費用、例えば、チラシの印刷代といった細々した経費は持ち出しになります。

京都大学のスキームを利用して学生がクラウドファンディングを行うことは可能ですか？

京都大学のスキームは大学で雇用されている教員・研究員向けとなります。そのため、学生がクラウドファンディングを行う場合、所属研究室の教員などともご相談の上、各自の判断で業者と連絡を取りクラウドファンディングを行うようにしてください。

CFで集めた寄付金は年度を跨いで利用できますか？また、研究員の雇用に用いることはできますか？

利用できます

望まない団体や個人（反社など）から寄付金が入金される危険はありませんか

原則として、寄付者は事前にクラウドファンディング事業者のHPで会員登録を行う必要があります。その際、本人確認などを含めて反社チェックが行われています。したがって、基本的には、そのような団体や個人からの寄付は無いものと考えております。

クラウドファンディングで得た寄付金は、他の競争的資金等や学内資金と合算利用することはできますか？

合算利用を予定している競争的資金側のルール次第ですので、当該資金側の事務局にお問い合わせください（科学研究費補助金については問題ありません）。

クラウドファンディング事業者へのコンサルタント料は京都大学で支払っていただけるのでしょうか？

コンサルタント料は、集めた寄付金から事業者を支払う手数料の中に含まれています。

よくあるご質問

その他の質問も下のURLに掲載されています。

https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/assets/ku_only/20230609_FAQ.pdf

わからないことがあれば

研究におけるクラウドファンディング利用に関すること
また、研究における外部資金の獲得についての相談は

学術研究展開センター まで

Email: crowdfunding@kura.kyoto-u.ac.jp Tel: 075-753-5108

※ WEBサイトにはその他様々な研究支援情報が掲載されています

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp>

クラウドファンディングにおける学内の審査および
学内への入金手続きについては、ご所属の部局の事務
もしくは

**成長戦略本部企画管理部オペレーション・
マネジメント・オフィス寄附金担当** まで

Email: shougaikikaku2@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp Tel: 075-753-2210